

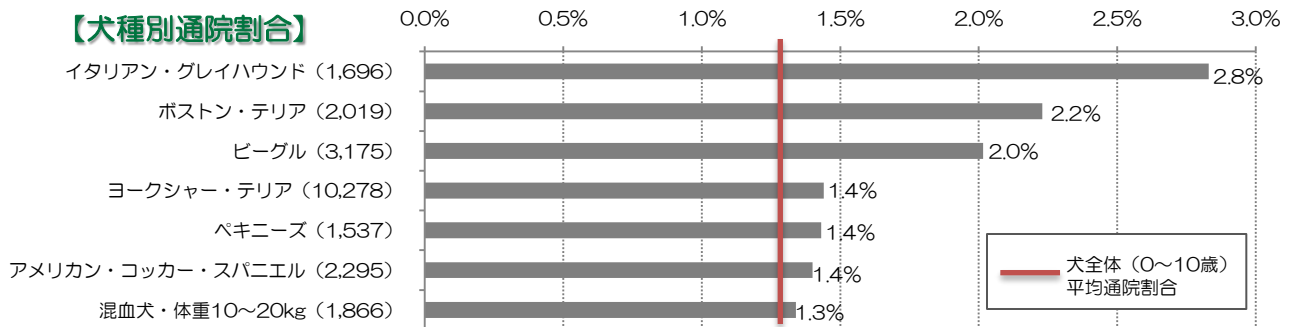


どんな子が「てんかん」になりやすい？

■てんかんの犬種別通院割合（0～10歳平均）

2010年度（2010/4/1～2011/3/31）にアニコム損保の「どうぶつ健保」契約を開始した0～10歳の犬について、てんかんでの通院割合を調査しました。その結果、犬全体の平均が1.3%であるのに対して、イタリアン・グレイハウンドは2.8%と最も高いことがわかりました。続いてポストン・テリアが2.2%、ビーグルが2.0%でした。

【犬種別通院割合】



※2010年度に「どうぶつ健保」契約を開始した犬292,290頭（0～10歳）を対象に、てんかんでの通院割合を犬種別に調査しました。

上記のグラフは、犬全体の平均よりも高い割合を示した犬種を示しています。

※請求が合計で20頭以上あった犬種を選択し、通院割合を算出しています。

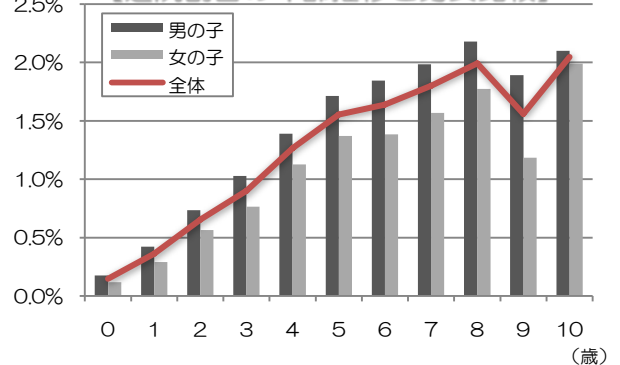
※各犬種名の後方に記載した（ ）内の数字は、各犬種の契約件数を示しています。

■てんかんの通院割合における年齢推移と男女比較

犬全体として、年齢増加にともない通院割合も上昇する傾向がみられました。また、女の子よりも男の子の方が通院割合が高い傾向にありました（男の子1.4%、女の子1.1%：0～10歳平均）。

てんかんは、基本的に発症すると継続して薬を飲むことが必要となる疾患です。そのために、年齢増加とともに通院割合も増加していくものと考えられます。

【通院割合の年齢推移と男女比較】



てんかんの通院割合が最も高い犬種は
イタリアン・グレイハウンド
さらに、男の子・高齢も通院割合が高い傾向あり